北京語における“赶”系列機能語の盛衰

李　佳樑*

1　はじめに

動詞“赶”を含む“赶”“赶到”などの形式（以下、これらを「“赶”系列」と呼ぶ）は、かつての北京語においては時間的限定節を構成する機能を持っていた。このことは、老舍（1899-1966）をはじめとする北京出身の作家の作品や北京語の口語資料[1]で確認することができる。

（1）二年无话，赶老孟回到国来，博士内兄已是大学校长。（老舍《听来的故事》）

（何事もなく二年が過ぎたが、孟さんが帰国したときには、博士号を持つ義理の兄はすでに大学の学長であった[2]。）

（2）赶到下雨的天，鞋上沾了点泥，我才去访那好清洁的同学，[…]（老舍《阳光》）

（雨の日に、靴に泥が少し付いてから、私はキレイ好きな同級生を訪れ、[…]）

「追いかける」「追い払う」「（道、到達・達成・完成を）急ぐ」などの意味を有する動詞“赶”およびその直後に“到”を伴う形式が、以上に示

＊　LI Jialiang　関西大学外国語学部准教授

1）1982年から84年にかけて、当時北京大学中文系中国語学専攻に所属していた教員と学生が、北京語についての体系的な調査を行なった（林焘ほか1995参照）。本稿で引用している「1982年北京話調査資料」はCCLに収録されたもので、初年度の調査で入手した言語資料だと思われる（張伯江氏のご教示による）。

2）別途説明がない限り、例文の日本語訳はすべて筆者によるものである。出典を明示していない例文は作例である。

した機能語的用法を持つことは、島津 2002、2003、2013 で考察された“等 A，B”構文における“等”を髣髴とさせる。

（3）等我再次关注互联网的时候，已经到了 2004 年，当时已经开始有博客之类的了，［…］（CCL）

（再びインターネットに関心を持つようになったときは、もう 2004 年になっており、ブログなどがすでに現れはじめていて、［…］）

（4）林之孝家的［…］不知就里，因而感到为难，等到贾琏和他使眼色，才明白过来。（CCL）

（林之孝の女房は［…］実情を知らずに困っていたが、賈璉が目配せしてやっと分かった）

興味深いのは、“赶”と“等”の語彙的意味が異なるのはもとより、待つという行為を表す“等”が今現在でも機能語として活躍しているのに対し、“赶”系列の使用は北京語において、遅くとも 1980 年代以降は著しく衰退しているように見受けられるという点である（5.1 参照）。

これまでの研究には、山西省内の一部の方言における“赶”の用法を記述したもの（4.3 参照）があるが、それ以外の地域における用法を記述したものは見当たらず、文法化の観点に基づいた分析もなされていない。“赶”系列の使用における変化を取り上げた先行研究に至っては皆無である。

本稿は、“等”に対する島津氏の分析を踏まえながら、“赶”系列の用法と文法化の過程を明らかにし、その衰退につながる要因について考察を試みたい。

2　島津 2002、2003、2013 の論考およびその示唆

第 2 節では、島津氏の“等”に関する一連の研究のうち“赶”系列と密接に関わる論考に絞って紹介する。

2.1 “等”の文法化の動機づけ

島津氏は、“等”の後ろに動詞句（VP）が続く場合、その VP が表す事態の出現時点が待つ行為の終点（goal）として設定される、と捉えている。また“等”の文法化の動機づけについては、複文（“等 A，B”）の前節に現れ、なお且つ“等”の動詞性を担保する語句（連用修飾語等）がなければ、待つ行為の起点と過程が背景化して、終点（＝事態 A の出現）のみが前景化し、継起事態 B の参照時点としての意味を獲得する、と分析している。

2.2 “等 A，B”の 2 つのタイプにおける“等”の文法化の進度

島津 2013 は、事態を捉える視点が動作者のものか、観察者のものかという基準による島津2003の分類を補完し、視点の置き方に基づいて“等A，B”を以下のように 2 つのタイプに分けている [3)]。

（5）タイプ①：待つ行為の起点から事態を眺めるもの

ex. 等下了雨就追肥。

（雨が降ったら追肥をする。）

タイプ②：待つ行為の終点から事態を眺めるもの

ex. 等我走到老张床前的时候，才发现他已经睡着了。

（張さんのベッドの前まで行った時、彼がもう眠っていることに気づいた。）

さらにこの 2 タイプの文の意味は次のように捉えられると主張している。

（6）タイプ①

（A が起こるまで一定時間の経過があり）A が起こったら B が起こる／起こるだろう　B は意志性の動作または推測・判断

タイプ②

（A が起こるまで一定時間の経過があり）A が起こった時 B が起こっ

3）（5）の例文およびその日本語訳は島津 2013 によるものである。

た／起こっていた　B は意志性の動作または非意志性の観察された事態

「意志性の動作」「観察」「推測・判断」といった事態 B の文の意味を捨象すれば、以上の分類・主張は次のように図式化できる。

タイプ①　　タイプ②

【図 1】 2 つのタイプの“等 A，B”

島津氏の分析によれば、タイプ①は事態 A も事態 B も未然のデキゴトで、主節で言語化される事態 B の動作者の視点が待つ行為の起点に置かれる。それに対して、タイプ②は事態 A も事態 B も已然のデキゴトで、観察者の視点が待つ行為の終点に置かれる。タイプ①は待つ行為の起点に視点を置いているため、待つ行為の起点および過程も視野に入り、タイプ②のような完全な背景化はできない。それ故、タイプ①における“等”には動詞性がより多く残っている。つまり、文法化の進度については、タイプ②のほうがタイプ①より進んでいるということになる。

3　時間的限定節に用いる“赶”系列の使用実態

“赶”系列については 3.1 以降で詳しく考察していくが、以上にまとめた“等”についての島津 2013 の分析は“赶”系列の考察にも有効である。

なお、“［ ］A，B”の［ ］に入って事態 A を事態 B の参照時点として表すものには、“赶”と“赶到”以外に、“赶上”もある。しかし、“赶上”は例（7）のように連用修飾の被修飾成分になることができ、例（8）のように主節にも用いられる。この点において“赶”“赶到”とは大きく異なる。

(7) […] 即使正赶上姐丈也断了粮，到底他们还可以上下古今的闲扯[…]（老舍《四世同堂》）

（[…] たとえお兄さんも食糧が尽きたとしても、彼らは思う存分におしゃべりできるのだ。[…]）

(8) 冠晓荷回到家中，正赶上冠太太回来不久。（老舍《四世同堂》）

（冠晓荷が家に戻ったら、ちょうど冠奥様が帰ってきたばかりのところだった。）

“赶上”が連用修飾の被修飾成分になり得るということは、“赶上”が述詞性を保持していることを示している。したがって、本稿は“赶上”は機能語と見なさない。

3.1 “赶”

まず、“赶”について見ていこう。

(9) a. 啊，蜜那蜜枣儿，[…]早起赶没出太阳以前[4]，跟跟您家是朋友，就给您家送去了，就给送粥去。（1982年北京话调查资料）

（まあ、ナ、ナツメはね、[…] 朝起きて、日が昇っていないうちにね、お宅とは仲がいいから、お宅に届けに行くね、お粥を届けに行く。）

b. 早起｛在／趁｝没出太阳以前，就给您家送去了。

(10) a. 您看，赶刚一解放啊，这R（ママ）男学生这个乐呀！（1982年北京话调查资料）

（ほら、解放〔政権交代〕した当初、この男の学生は〔言葉で表現できないほど〕嬉しがっていた。）

b. ｛在／＊趁｝刚一解放的时候啊，这男学生这个乐呀！

4）“VP＋方位詞／‘的时候’etc.”は統語的には名詞句と分析できるが（その場合、“赶”は前置詞となる）、方位詞と“的时候”などはいずれも物質範疇ではなく関係範疇に属すことから、本稿では“赶～方位詞／‘的时候’etc.”を囲み型の接置詞（adposition）であると考える。

例（9）（10）のbのように“赶”は“在～方位詞/‘的时候’”に置き換えられることから、（9）（10）のaに用いられた“赶”は“在～方位詞/‘的时候’”などと同様の機能、即ち時間的限定節を表示する役割を果たしていることが分かる。

ところが、（9）aの“赶”は“趁”にも置き換えられるため、この“赶”は「タイミング（＝日の出の前）を逃さないように急ぐ」と解釈することもできる。さらに“赶”の動作主は、事態Bの「ナツメやお粥を届けにいく」人と想定できる。言い換えれば、（9）aの“赶”にはまだ動詞としての語彙的意味が残っているのである。それに対して、（10）aの“赶”は動作主を想定しにくい。島津氏の“等”に対する分類を援用すると、それぞれタイプ①とタイプ②の例と見なすことができる。

ちなみに、次のように、事態Aに時間詞が伴う例も観察される。

（11）赶明年过生日，叫父亲给买个大汽车，他一定给我买！（老舍《小坡的生日》）

（来年の誕生日には、お父さんにおもちゃの車を買ってもらおう。お父さんはきっと買ってくれるんだ。）

言うまでもないが、“赶”の直接構成素（immediate constituent）は“明年过生日”であり、“明年”ではない。この点は5.2で考察を行なう“赶明儿”と大きく異なる。

3.2 “赶到”

時間的限定節“到＋VP＋（的时候）”の直前には、“到”と同じ機能を有する“赶”を付けることができ、この場合、“赶到”は2音節の接続的形式になっていると見なすことができる。

（12）赶到科学的医术由西方传来，我们又知道了以阿司匹灵代替万应锭，［…］（老舍《四世同堂》）

（科学的な医術が西洋から伝来して以来、私たちはまたアスピリンが萬

応錠に代わるものであることを知るようになり、[…])

(13) 那会儿招家属的时候儿呢，咱们孩子岁数儿不够，赶到咱们孩子毕了业呢，就是上部队了都。(1982年北京话调查资料)

(当時、家族を対象として募集していたときは、うちの子は年齢を満たしていなかったが、うちの子が卒業するときになると、皆部隊に配属されるようになった。)

事態A、Bがともに未然（非現実）のデキゴトを表す場合、“赶到”節は条件節とも解釈できる。

(14) 平常你们都很爱国，赶到炮声一响，你们就都藏起去！（老舍《四世同堂》)

(平生、君たちはみなとても国を愛しているのに、鉄砲の音が伝わってくるときは／伝わってくると、みなたちまち隠れやがって。)

(15) 赶到非买贵一些的东西不可了，姑母便亲自出马。(老舍《正红旗下》)

(少し高めのものを買わなければならないときは／買わなければならなくなると、叔母は自ら乗り出す。)

直後に“到”を伴うためか、“赶到”には「急ぐ」といった語彙的意味が残っている用例が見当たらない。しかし、(14)(15)はタイプ①に、(12)(13)はタイプ②に属しており、やはり“赶到”にも進度の違う文法化が見られる。

3.3 “等赶”

“等赶”はコーパスに実例が1例だけあるが、その例は“等”のタイプ②に相当するものである。

(16) 可是过去说这房子是比较旧的，都是那种碎砖头盖的，等赶解放了，从解放以后，国家有给翻盖了，比较好一点儿。(1982年北京话调查资料)

(しかし昔はね、家屋は結構古くて、みな砕けたレンガで建てられたも

のだった。解放になり、解放してからは、政府が建て直してくれたので、ちょっと良くなった。）

以上に示したように、“ 赶 ” 系列は時間的限定節を構成し、場合によっては条件節という解釈も許容される。また、中には「タイミングを逃さないように急ぐ」という、もともとの動詞の語義と直結する意味合いを含むケースも観察される。

4 “ 赶 ” の文法化

“ 赶到 ” “ 等赶 ” は文法化した “ 赶 ” が、それと同じ機能を果たす “ 到 ” “ 等 ” と共起することによってできた並列構造だと考えられ、また、紙幅の制限もあるため、ここでは “ 赶 ” の文法化のみを取り上げることにする。

4.1 機能語化した “ 赶 ” の原義

前述の通り、動詞としての “ 赶 ” は多義語である。当然ながら、機能語の “ 赶 ” が動詞のどの意味から拡張してきたのかという問題を俎上に載せなければならない。まず、動詞の “ 赶 ” が持つ各意味の典型的な例を見てみよう。

（17） Ⅰ．赶苍蝇（ハエを追い出す）
Ⅱ．赶大车（荷馬車を走らせる）
Ⅲ．赶时髦（流行を追う）
Ⅳ．赶末班车（最終電車〔バス〕に乗れるように道を急ぐ）

上記のⅠ～Ⅳは、【表 1】が示すように、各動作に動作主と受け手の移動が伴うかどうか、動作主と受け手の相対的距離の変化の有無、という 2 つの角度から考察すると、認知言語学で謂う「家族的類似」（family resemblance）があることがわかる。

【表 1】 動詞の“赶”おける「家族的類似」

<table>
<tr><th rowspan="2">意味</th><th rowspan="2">典型例</th><th colspan="2">移動</th><th rowspan="2">動作主と受け手の距離</th></tr>
<tr><th>動作主</th><th>受け手</th></tr>
<tr><td>Ⅰ</td><td>赶苍蝇</td><td>－</td><td rowspan="3">＋</td><td>拡大（→∞）</td></tr>
<tr><td>Ⅱ</td><td>赶大车</td><td rowspan="3">＋</td><td>保持</td></tr>
<tr><td>Ⅲ</td><td>赶时髦</td><td rowspan="2">縮小（→0）</td></tr>
<tr><td>Ⅳ</td><td>赶末班车</td><td>－</td></tr>
</table>

Ⅰは「受け手が移動する」という点でⅡ、Ⅲとつながっており、Ⅱ、Ⅲは「動作主が移動する」という点でⅣとつながっている。さらに、ⅢとⅣの間には、動作主と受け手の相対的距離を縮めることが動作の目標であるという共通点が存在する。

Vendler 1967 の分類に基づけば、Ⅰ～Ⅲは目的語を付けても activities であり、限界性を持つ accomplishments を表すためには「外的限界設定」（金水 2003 および島津 2013）が必要である。なぜなら、これらの“赶”の受け手も常に「移動」をしているからである。一方、Ⅳについては、“赶末班车”にとって最終電車の発車時間がまさしく内的限界点であり、その終電に乗れた時点で“赶（末班车）”が終結点を迎えることになるため、［＋動態］［＋継続］［＋限界］という意味素性を持っていると見なすことができ、accomplishments にカウントできる。“等”と同様に、“赶”で表される動作の終結点の存在は、“赶”の機能語への文法化において必要不可欠であると考えられることから、動作・行為の〈goal〉を明白に持つⅣが“赶”の機能語化が起こった統語的・意味的環境であったと推定できる。

4.2 “赶”の目的語に見られる拡張

発車時間が一定である“末班车”のような、時間軸上に定位された既存の点が前提になっているものが“赶”の目的語（O）として生起すると、

そのタイミングに間に合うように急ぐという解釈になる[5)]。一方、このような“赶＋O”は連動構造のVP_1になると、VP_2で表される〈目的〉の手段などと解釈され、この場合、〈goal〉に到達する時点はVP_2の参照時点でもある。例えば、例（18）のaはbを必然的に含意する。

（18）a. 赶末班车回京都

（京都に帰るべく終電に乗ろうと急ぐ）

b. 在末班车的（发车）时间回京都

（終電の（発車）時刻に京都に戻っていく）

さらに、Oが日付や曜日などの、何かしらの〈タイミング〉を明示する語句の場合、「急ぐ」という具体的な「様態」の意味合いがより一層後退し、VP_2がOという時点に起こり得るように「やり繰り」する、といった抽象的意味にシフトする。

（19）他们干吗非赶这日子闹得一家子不痛快？（陈建功、赵大年《皇城根》）

（彼らはどうしてこの日に家族全員に嫌な思いをさせなければならなかったのだろうか。）

（19）の“赶”は、副詞“非”の修飾を受けていることから、動詞と認定するという見方も一理あるかも知れない。しかし、このような“赶＋O”はVP_2との共起が義務的であり、この点は看過できない。これは“赶末班车”と比較すると一目瞭然である。

（20）你在干什么？（あなたは何をしているの？）

a. 我在赶末班车。（私は終電に乗れるよう急いでいる。）

b.* 我在赶这日子。

以上のことから、この“赶”はもはや前景となるデキゴトの動作を表す動詞ではなく、動詞というカテゴリから逸脱し始めながらも、前置詞ほど

5）ほかに、“赶考”（試験に間に合うように［準備を］急ぐ）、“赶工”（工事や製造が納期に間に合うように［作業を］急ぐ）、“赶稿”（原稿提出の締切りに間に合うように［執筆を］急ぐ）などが挙げられる。

ブリーチングしていない coverb と言えよう。

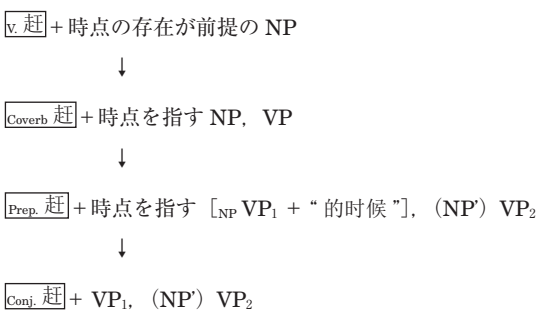
また、例（21）のように、連動構造に準じた統語構造を構成しない場合は、“赶”はより前置詞に近い。

（21）你看，我这么想：赶二十七老头子生日那天，你去给他磕三个头。
（老舎《骆驼祥子》）
（いいか？わたしはこう考えている。オヤジの誕生日の 27 日に、君がオヤジに三回の稽首をしに行くのだ。）

さらに、そこからの類推で、時間詞（時点を表す名詞句）に相当する“VP ＋方位詞／‘的时候’etc.”（VP は節も含む）も“赶”の目的語に用いられるようになる。例（9）a の該当する部分を再掲する。

（22）［赶［$_{NP}$［$_{VP}$没出太阳］以前］］

こうした共起によって、“赶”は“VP ＋方位詞／‘的时候’etc.”からも時点の意味を獲得していくが、「まさにその時点だ」という「同時性」を表す“的时候”の類と共起する場合、機能的に重複することになる。その結果として、“赶”と“的时候”のどちらかのみを使うことが可能となる。そして“的时候”の脱落によって“赶”は前置詞から接続詞へとさらに文法化できたのだと考えられる。以上の分析は【図 2】のようにまとめられる（矢印は拡張の方向を示す）。



【図 2】“赶”が文法化した統語的環境

4.3 “赶”の文法化の広範性

吴静 2002 と刘静 2009 によると、“赶”が機能語として時間的限定句(節)に用いられる現象は 13 世紀半ばに遡ることができ、北方の広い地域に見られるという[6)]。

(23) 有个婆婆，每年赶这七月七入城来卖一担魔合罗。(元・孟汉卿《魔合罗》，吴静 2002 より)

(ある婆ちゃんが、毎年 7 月 7 日に、魔合羅を 1 荷売りに町に入る。)

(24)(大同方言)

赶我有钱了就买辆车。(刘静 2009 より)

(私はお金ができたら車を一台買う。)

また、吴静 2002 によれば、中原官話に属する万栄方言においては、「追いかける」「急ぐ」等の意味を有する“撵”にもやはり同様の機能語的な使い方が存在するとのことである。

(25)(万栄方言)

撵你回来馍馍就熟了。(吴静 2002 より)

(あなたが帰ってきたときにはマントーは食べ頃だ。)

“赶”系列は 800 年近くの歴史を持ち、なお且つ広域的に存在しており、それぞれにおいて、同様の文法化のプロセスを展開してきたのである。

5 “赶明儿”の勃興と“赶”系列の衰退

ところが不思議なことに、20 世紀半ば以降から現在に至る数十年の間に、“赶”系列の使用は一気に低減している。老舎の作品には大量に現れ、1982 年の調査で収集された口語資料にも、小規模な調査にも関わらず、一定数の例が確認できるが、劉心武や王朔のようなおよそ 1980 年代以降

6) さらに、河北省の滄州方言(劉林氏のご教示による)と山東省の竜口方言(賈黎黎氏のご教示による)にも同じ用法を持つ“赶”もしくは“赶nə”があるという。

に作品を発表し始めた作家の作品では、用例数が著しく低下している。また、筆者が行なった調査から、1980年代以降に生まれた北京出身の北京語話者も時間的限定節に用いた“赶”“赶到”に対して違和感があり、自身は言わないし、また聞いたこともないということが分かった。本節では、“赶”系列の衰退を確認した上で、それが起きた要因に迫りたい。

5.1 “赶明儿”の勃興

“赶”系列の衰退と相補的な現象に見えるのは、例（26）のような“赶明儿”（“等赶明儿”など、ほかにバリエーションが複数ある。【表2】参照）の頻度の増加である。

（26）祥子，赶明儿你当了厂主，别忘了哥儿们哪！（老舍《骆驼祥子》）
（祥子よ、今度君が人力車場のオーナーになったら、俺らのことを忘れるなよ。）

次の【表2】に挙げる「老舍」と「1982年北京話調査資料」は20世紀前半の北京語あるいは調査当時の中高年層が使用していた北京語を反映

【表2】“赶”系列と“赶明儿”の用例数（作家・時代別）

作家 / 用例数 / 形式	老舍	1982年北京话调查资料	陈建功 赵大年	刘心武	王朔
①赶	2	4	1	0	0
②赶到	80	4	1	0	0
③等赶	0	1	0	0	0
合計1（①＋②＋③）	91		2		
④赶明儿（个）/赶明天	32	0	15	2	20
⑤赶到明儿个	1	0	0	0	0
⑥等赶明天	1	0	0	0	0
合計2（④＋⑤＋⑥）	34		37		
合計2/合計1	0.37		18.5		

するものであり、「陳建功・趙大年」「劉心武」「王朔」はすべて1980年代以降に出版された小説で、概ね20世紀後半の比較的新しい北京語を反映するものと考えられる。老舎の作品と1982年北京話調査資料においては、“赶”系列1回の使用に対し、“赶明儿”とそれに準じる表現はわずか0.37回使われているに過ぎないが、数十年後の小説においては、この数字は18を超し、50倍に増えている。

5.2 “赶明儿”と“赶”系列の違い

“赶明儿”は例（27）のような時間詞としての用法を持つが、“赶”系列と同様に、“［ ］A，B”の［ ］にも入ることができる。前掲の（26）がその例である。

（27）赶明儿咱哥儿俩好好聊聊。（王朔《无人喝彩》）

（今度俺たち2人で思う存分語り合おう。）

しかし、“赶明儿”と共起する事態Aには時点を表す語句の生起は許されず、（28）は成立しない。

（28）*赶明儿明年过生日，叫父亲给买个大汽车。（cf. 例（11））

さらに、事態Aと事態Bが両方とも未然のデキゴトに限られるという点で“赶”系列と一線を画している。

（29）*二年无话，赶明儿老孟回到国来，博士内兄已是大学校长。

（cf. 例（1））

つまり“赶”系列は、島津氏が明らかにした“等”のタイプ①とタイプ②に相当する用法を両方とも有するのに対して、“赶明儿”は「文法化の進度が低い」タイプ①の用法しか持たないということになる。

5.3 “赶明儿”の語彙化

例（26）などに用いられている“赶明儿”はすでに語彙化している。それを裏付ける最も重要な根拠は次の2つである。一つ目は、例（11）を

提示したときにも触れたことだが、“赶明儿VP”の構造を分析すると、“赶”の直接構成素は“明儿”であり、“明儿VP”ではないという点である。このことは、例(30)において“赶明儿(个)”と“你听说”の間にコンマ(ポーズ）があるということから明らかである。

(30) 这个破村子留不住我，我要上大城里去作个好汉！赶明儿个，你听说大城里头又出了康小八，那就是我！（老舍《八太爷》）

（このボロボロの村は俺を留めることができん。俺は大きな街に出てえらい人物になるんだ。大きな街にまた「康小八」〔清末の有名な匪賊〕が現れたと近い将来耳にしたら、それは俺のことである。）

二つ目は、“明儿”（“明儿个”“明日”“明天”も含む）の意味変化である。“明儿”は、例（31）が示すように、もともとは〈アシタ〉を指す時間詞であった。

(31) 孟良问曰：“汝要入城否？”渔父曰：“赶明日献鱼，如何不入城？”孟良曰：“献甚么鱼？”渔父曰：“八月二十四日，乃萧娘娘寿诞，例当进献鲜鱼奉贺。今朝是二十三日，明日侵早要进。”（清・半闲居士《杨家将》）

（孟良は「あなたは町に入るのか」と訊ねる。漁師は「明日魚を献上するのだから、入らないわけがないでしょう」と。孟良は「何のための魚を献上するのか」と聞く。漁師は「8月24日は蕭妃さまのお誕生日で、通例に従って鮮魚を献上しなければならない。今日は23日で、明日朝一番に入らなくてはならない」と言った。）

しかし、再び例（30）に戻ると、「えらい人物になる」はふつう一昼夜でできることとは考えられないため、例（30）の“明儿”は〈アシタ〉ではなく、漠然とした未来を指すものと考えられる。このことから、例（30）の“赶明儿个”は例（31）の“赶明天”と異なり、フレーズ全体が語彙化したものであると言えよう。

ただし、“明儿”の〈アシタ〉という語彙的意味が薄れているとは言っても、未来の時点だという点に変わりはない。だからこそ、例（28）（29）に示したように、事態Aに時間詞を用いることを阻み、事態A、Bはどちらも未然のデキゴトでなければならないといった制限がかかるのである。

なお、“明儿”の意味変化は“赶”と共起するようになってから起こったものではなく、“明儿”だけでも〈未来〉を表せる[7]。しかしながら、“赶”と共起していない“明儿”は〈アシタ〉という意味を表す場合もあるのに対して、“赶明儿”における“明儿”はそれができない。例えば、（32）bは「私は明日になってようやく家に帰る」という意味を表す文としては不自然である。

（32）a. 我明儿才回家。

b.* 我赶明儿才回家。

予想よりデキゴトの発生が遅いことを表す“才”との共起の可否から、〈未来〉を表す“赶明儿”と〈アシタ〉を表す“明儿”の違いは明らかである。したがって、“赶明儿”における“赶”は例（21）（“赶二十七老头子生日那天”）のようなcoverbでも前置詞でもなく、“明儿”に対する〈アシタ〉という解釈を排除するために働く「語の内部構成素」（word-internal element）[8]であると捉え、“赶明儿”を一語と見なすのが最も妥当な分析だと考えられる。

7）〈アシタ〉から未来時制を表すテンス・マーカーへ文法化する言語が複数存在している（Heine & Kuteva 2002:299 参照）。

8）「語の内部構成素」は董秀芳 2004 において提唱された概念である。同論文は、一部の接続詞と副詞の直後に現れるものの、接辞として認定するには無理がある“是”（例えば“无论是”“虽然是”“好像是”“据说是”における“是”）を「語の内部構成素」と見なしている。“赶”には“是”ほどの生産性がなく、“赶明儿”以外に“赶+NP”で語彙化しているものが存在していないため、なおさら接辞とは見なし難い。なお、“赶紧、赶快、赶忙、赶巧、赶早”という“赶＋形容詞”からなる副詞群があるが、そこにある“赶”の性質については稿を改めて精査したい。

5.4　一語としての“赶明儿”が成立した時期

“赶明儿”の一語としての歴史は“赶”系列に比べるとはるかに浅い。“赶明儿”という組み合わせ自体も20世紀に入るまではあまり見られない。

CCLコーパスに収録されている清代の小説における“赶明～”については、“赶”が前置詞として分析できる用例はわずか6例である。そのうち“赶”の直後が“明天”“明日”の例は、前掲の例（31）のほか次の3例が見つかったが、“赶明儿”はない。

（33）委员［…］一径到镇江府去上衙门，禀知这件事，求府尊明日谒见时转个圜。［…］委员［…］又到常镇道衙门去求见，禀知这件事。道台听了，不觉好笑起来道:［…］委员听了道台一番气话，默默无言。道台又道：“赶明天见了再说罢。”（清・吴趼人《二十年目睹之怪现状》，1909年）

（委員は［…］まっすぐ鎮江府の役所へ赴き、この件を報告して、翌日会うときに円満にまとめてくれるよう府知事にお願いした。［…］委員は［…］また常鎮道の役所を訪れ、この件を報告した。道知事はそれを聞き、思わず笑って言った。［…］委員は道知事の怒りの話を聞き、黙り込んでいた。道知事はまた口を開いて、「明日/今度会ったらなんとかしよう」と言った。）

（34）急什么！［…］我又不是不肯，今儿个太晚了，［…］赶明天早一点来，我准不哄你。（清・曾朴《孽海花》，1904年～）

（何を急ぐのだ！［…］私は嫌なわけじゃない。今日はもう遅い。［…］明日/今度早めに来なさい。私は絶対あなたに嘘をつかないから。）

（35）洞仙道：“［…］然而近来世界，只要肯应酬，从府道爬到督抚，也用不着几年工夫。你佇也弄个功名出来干罢！”我笑道：“好，好！赶明天我捐一个府道，再来托你送笔墨。”（清・吴趼人《二十年目睹之怪现状》，1909年）

（洞仙が「［…］しかしこの世界では、付き合いや接待さえ嫌でなければ、

府知事から督府になるまで数年間もかからない。あなたも資格と官職を得て出世しなさい」と言った。私は笑って、「分かりました。近い将来、私は金で府知事の位を買って、筆と墨を贈るようにあなたにお願いしますよ」と言った。)

日本語訳からも分かるように、(31) を含むこの 4 つの実例のうち、(35) 以外の例における“赶明天（日)”はやはり「明日になったら」という解釈が排除し難い [9]。

従って、“赶明儿”が一語として定着してきたのは概ね 20 世紀に入ってからのことと推定できる。さらに、“赶”系列の衰退と“赶明儿”の爆発的な発達は時期が重なっていることが分かる。

5.5 “赶”系列の衰退の原因

ここで、“赶”系列の衰退の原因について考えてみたい。結論から言うと、“赶明儿”が頻繁に使用されるようになったことにより、“赶”が“明儿”の意味を〈未来〉に絞る「語の内部構成素」であるという印象が強化され、それによって時間詞を目的語に取る前置詞の性質が際立ち難くなったのである。

“赶明儿”は“赶”系列と同様に、“[ ] A, B”という構文において、事態 B の参照時点と解釈できる事態 A の直前に用いられるが、時間的限定節を表示する接続詞と分析する必然性あるいは必要性は保証されていない。そもそも、事態 A →事態 B という順番で提示された場合、事態 A

9）なお、“赶到明～”は 1 例あり、“等赶明～”の用例はない。
你们这是怎么说呢？我好容易找了个人来，你们就欺负。赶到明儿你们挤跑了他，这图什么呢？(《七侠五义》，19 世紀半ば～)
(君らはいったい何をやっているのだ。私がせっかく人を見つけてきたのに、君らが虐めやがって。近いうちに彼を追い出すというのであれば、それは何になるのか？)

が起きてから事態Bが起きる／起きた、という時間的な継起関係があるという解釈がデフォルトである。そのため“赶明儿”の有無にかかわらず、事態Bが事態Aの次に起きるということが自ずと了解される。また、何よりも重要視すべきなのは、事態Aに時間詞の生起が許されないことである。換言すれば、“赶明儿A”における“赶明儿”は、AとBを結びつけるものではなく、統語的にはAを修飾する連用修飾語であり、意味的には事態Aの参照時点を提供する時間詞に相当するのである。

“赶”にもし前置詞的な特徴がなければ“明儿”とは共起できなかったはずである。だが周知のように、そもそも中国語において時間詞が連用修飾語になる場合、通常、前置詞との共起は必要とされない。一方、既に述べたように、“明儿”だけの場合、〈未来〉という解釈になるとは限らない。“赶明儿”が時間詞に相当する一語に変化した以上、“赶”に求められるのはもはや前置詞的な機能ではなく、“明儿”を〈未来〉と解釈できるようにする役割である。

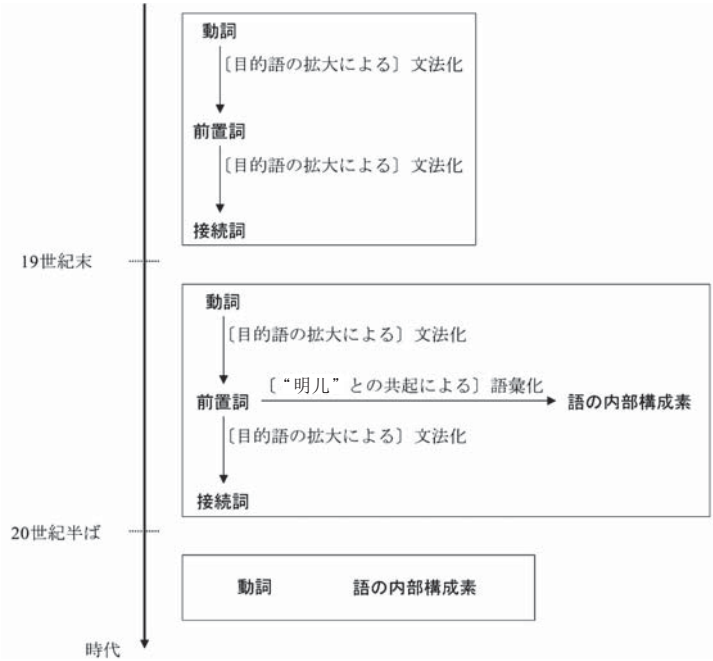
【図2】にも示したように、“赶”系列が時間的限定節を構成する機能を持つようになるには、前置詞の“赶”の存在が不可欠である。しかし、〈未来〉の意味で“赶明儿”が使用される中で、前置詞としての“赶”の役割は弱まっていく。“赶明儿”を使えば使うほど、“赶”にもともとあった前置詞性が次第に意識されにくくなり、最終的には「無色」になる。そして、それによって、前置詞という中間段階を必要とする“赶”の文法化が「逆戻り」する。“赶”系列全体が衰退を余儀されなくなったのはその現れにほかならない。

6　まとめ

以上、北京語の時間的限定節を構成する接続詞と前置詞の“赶”系列機能語を取り上げ、その使用実態・文法化・衰退について考察した。

本稿では、“ 赶 ” 系列の用法を記述し、その文法化の過程を探るにあたって、島津幸子氏の “ 等 A，B” に関する一連の研究で提示された枠組みがたいへん示唆的であることを示した。

さらに、“ 赶 ” 系列は複数の面で “ 等 ” と類似しているものの、文法化の過程で、“ 等 ” には見られない衰退が起こったことも指摘した。現時点の北京語においてあえて機能語として分析可能な “ 赶 ” は “ 赶明儿 ” における “ 赶 ” のみである。筆者は、この衰退が “ 赶明儿 ” の語彙化に起因するものだと考えている。前置詞の “ 赶 ” と “ 明儿 ” が一語化することによって、接続詞の “ 赶 ” が成立する前提（文法化を保証する中間段階）である “ 赶 ” の前置詞用法が消えていったのである。以上に述べた “ 赶 ” 系列の盛衰は、時間軸を用いて表すと次のようになる。



【図 3】 “ 赶 ” の意味・機能の通時的変化

文法化の中間段階における形式が語彙化によって語の内部構成素となり、それまでの文法化が「逆戻り」するという“赶”に見られる現象はどれだけ一般性を持つのだろうか？また、この現象は文法化理論の枠組みにおいてどのように捉えたら良いのか？こういった課題を解決するには、さらなる綿密な調査と研究を俟たねばならない。

用例出典

CCL コーパス：北京大学中国語言学研究中心語料庫
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/

BCC コーパス：北京語言大学語料庫中心　http://bcc.blcu.edu.cn/

参考文献

金水敏 2003 時の表現，『時・否定と取り立て』第 1 章，3-92，岩波書店

島津幸子 2002 時間を表すフレーズを構成する前置詞“等”と“当”について，『中国語学』249 号，211-228，日本中国語学会

島津幸子 2003 イメージスキーマからとらえた“等”の文法化，『お茶の水女子大学中国文学会報』22 号，17-31，お茶の水女子大学中国文学会

島津幸子 2013 “等 A，B”構文における“等”の文法化，木村英樹教授還暦記念論叢刊行会『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』352-372，白帝社

董秀芳 2004 “是”的进一步语法化：由虚词到词内成分，《当代语言学》2004 年第 1 期：35-44

林焘・沈炯 1995 北京话儿化韵的语音分歧，《中国语文》1995 年第 3 期，170-179

刘静 2009 大同方言中的“赶”，《山西大同大学学报（社会科学版）》第 23 巻第 2 期，69-71

吴静 2002 万荣方言的“赶”，《语文研究》2002 年第 4 期，57-58

Heine, Bernd and Tania Kuteva 2002 *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Vendler, Zeno 1967 Verbs and times. In Vendler, Zeno（ed.）, *Linguistics in philosophy*, 97-121. Ithaca: Cornell University Press.

＊　本研究はJSPS科研費JP16H03411の助成を受けたものです。本稿の執筆にあたっては、相原まり子氏と小野秀樹先生から有益なご助言を頂きました。また第2回日本語と近隣言語における文法化ワークショップ（2017年11月18日～19日、東北大学）において、本稿の主な内容を口頭発表し、ナロック・ハイコ先生と楊凱栄先生から貴重なご意見を頂きました。心より感謝申し上げます。